国際バカロレアと日本の英語検定教科書の比較~高等学校新学習指導要領施工に向けて~

安田明弘

(武蔵高等学校中学校)

研究の動機・概要

日本の一条校において, 国際バカロレア(IB)のDiplomat Program(DP)やMiddle Year Program (MYP)を導入する中高が増えている。一方で, 一条校でIB教育のエッセンスを取り入れた実践をする動きもある。

そこで教科書の視点から、IBにおけるDP English BやMYP Englishと、日本の検定教科書が求めているテキストの言語材料のレベルやタスクの質を比較、分析することで2つのプログラムの目指す英語教育のギャップを可視化することができると考えた。

すでに同じような試みとして、Kawano (2016)ではDP English Bの教科書と、日本の高校の英語検定教科書における、テキストの題材と、タスクや問いに関する分析がなされていたため、それをベースに分析する教科書を範囲をMYP Englishまで広げた。また、Kawano(2016)ではなされていなかったリーディングテキストの言語材料そのものの分析も行った。

本研究の概要

- (1) 言語材料 (リーディングテキスト) の分析
 - ・分析テキストの概要
 - · Text typeについて
 - ・1テキストあたりの総語数,総文数,1文あたりの語数
 - ・語彙のレベル(AWL, EVL)
 - · 可読性 (Flesch Reading Ease)
- (2) リーディングテキストの関連タスクの分析
 - ・読解関連タスクの分布(pre-/while-/post-reading taskの割合)
 - ・ブルームのタキソノミーに基づいた思考レベルの分布

(1) 言語材料 (リーディングテキスト) の分析

分析した教材とリーディングテキストについて

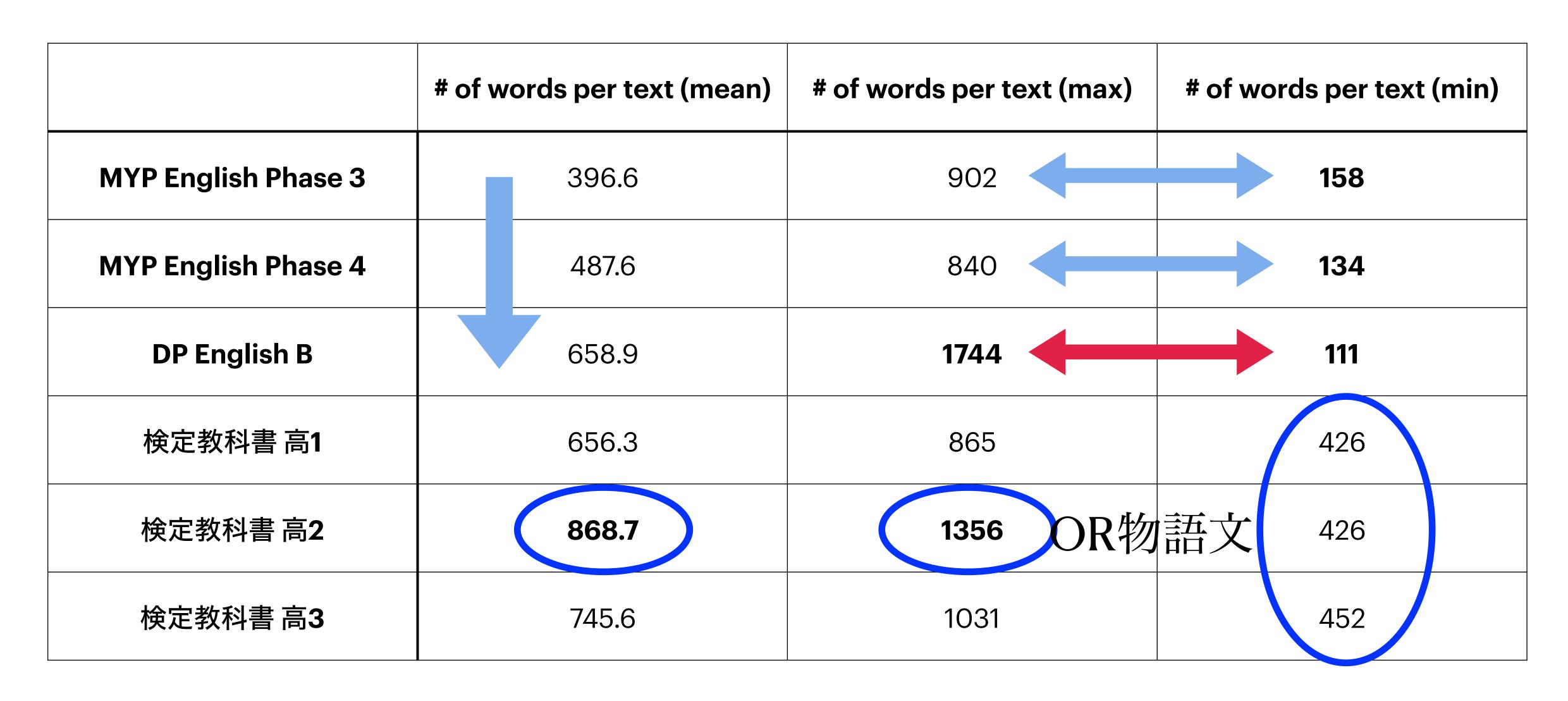
	# of texts examined	分析したテキスト
MYP English Phase 3	25	Audio-visual input, poster等のvisual中心のテキストを除く
MYP English Phase 4	31	Audio-visual input, poster等のvisual中心のテキストを除く
DP English B	57	Audio-visual inputやコラムやアウトプット活動のモデルを除く
検定教科書高1	12	全ての読解テキスト
検定教科書高2	12	全ての読解テキスト
検定教科書高3	16	全ての読解テキスト

Text types 2017

	# of texts examined	Text types
MYP English Phase 3	25	expository(7), narrative(6), opinion(5), Blog(1), survey(1), poster(1), brochure(1), guidelines(1), checklist(1), mindmap(1)
MYP English Phase 4	31	expository(12), narrative(7), opinion(6), poster(3), speech(2), report(1)
DP English B	57	narrative(21), expository(16), opinion(8), news article(4), diary(2), book review(2), movie review(1), letter(1), guidelines(1), ad.(1)
検定教科書高1	12	Expository(10), Narrative(2)
検定教科書高2	12	Expository(9), Narrative(2), Speech(2)
検定教科書高3	16	Expository(15), Narrative(1)

言語材料(リーディングテキスト)の分析(1)

1 テキストあたりの単語数



言語材料(リーディングテキスト)の分析(3)

1 文あたりの平均単語数

	_	je words per nce (Mean)	Average words per sentence (Max)		Average words per sentence (Min)	
MYP English Phase 3	13.9		20.48			9.1
MYP English Phase 4		15.2	26.1			9.26
DP English B		15.5	25.57			6.68
検定教科書高1		12.2	18.4			8.52
検定教科書高2		13.4	17.6			8.52
検定教科書高3		18.2	21.7			13.69

言語材料 (リーディングテキスト) の分析 (4)

Academic Word Listの単語の出現率

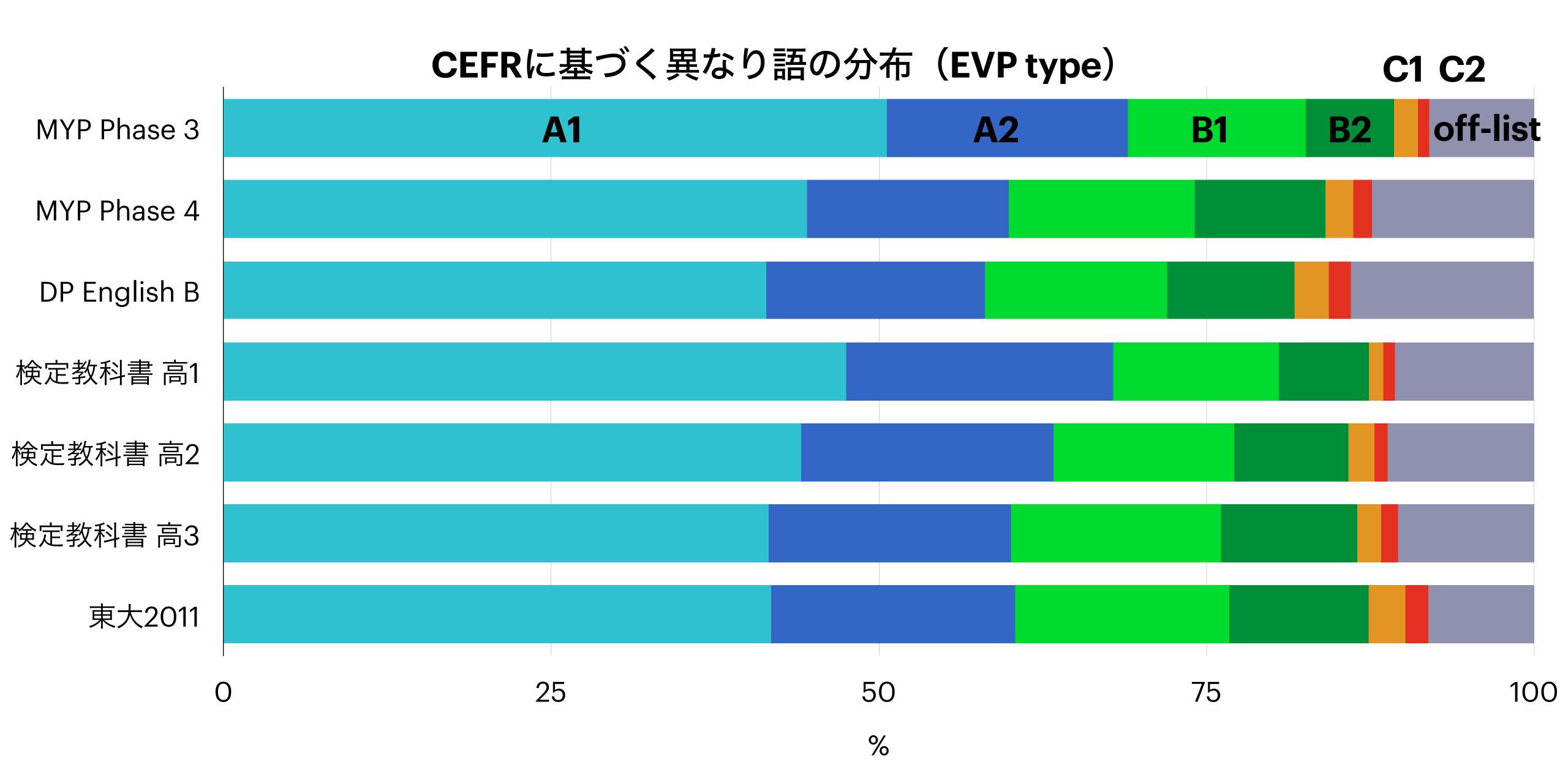
	Academic Word List: % of all AWL words (types) in the all text (Mean)		Academic Word List: % of all AWL words (types) in the text (Max)	Academic Word List: % of all AWL words (types) in the text (Min)
MYP English Phase 3		5.33	14.53	O
MYP English Phase 4		5.91	18.78	O
DP English B		6.41	20.9	0.82
検定教科書高1		3.39	5.88	1.29
検定教科書高2		5.58	9.3	1.29
検定教科書高3		7.93	12.53	3.62

言語材料(リーディングテキスト)の分析(5)

CEFRに基づく異なり語の分布(EVP type)

	A1 type %	A2 type %	B1 type %	B2 type %	C1 type %	C2 type %	Unlisted type %
MYP English Phase 3	50.6	18.4	13.6	6.7	1.8	0.9	8.0
MYP English Phase 4	44.5	15.4	14.2	10.0	2.1	1.4	12.4
DP English B	41.4	16.7	13.9	9.7	2.6	1.7	14.1
検定教科書高1	47.5	20.4	12.6	6.9	1.1	0.9	10.7
検定教科書高2	44.1	19.2	13.8	8.7	2.0	1.0	11.2
検定教科書高3	41.6	18.5	16.0	10.4	1.8	1.3	10.4

言語材料(リーディングテキスト)の分析(5)



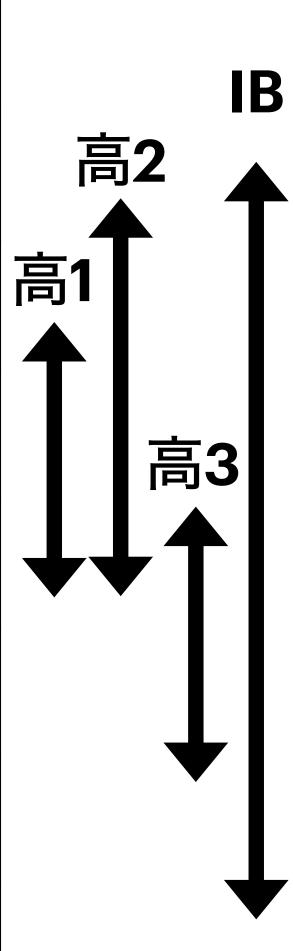
言語材料(リーディングテキスト)の分析(6)

リーダビリティ (可読性)

易	難

	Flesch Reading Ease (Mean)	Flesch Reading Ease (Max)	Flesch Reading Ease (Min)
MYP English Phase 3	71.0	88.7	43.2
MYP English Phase 4	64.2	97.3	25.6
DP English B	65.6	92.6	28.8
検定教科書高1	70.7	84.3	64.1
検定教科書高2	71.3	95.9	64.1
検定教科書高3	60.1	70.1	51.5

Score	Reading Difficulty	Grade Level
90-100	Very Easy	4th grade
80-90	Easy	5th grade
70-80	Fairly Easy	6th grade
60-70	Standard	7th-8th grade
50-60	Fairly Difficult	High school
30-50	Difficult	High school- college
0-30	Very Difficult	College graduate



まとめ(1)

- IBの教科書は非常に短い読み物から長い読み物まで幅広く扱っている。(ポスター等のビジュアルテキストを含めた様々な読みものを扱っているため。)一方,日本の検定教科書は一定の分量の読み物のみを扱っている。(殆どがExpository text)
- 1 文あたりの単語数は平均すると,日本の高3の検定教科書が最も長い文を扱っているが,テキストによってはDP English,ついでMYP Englishの方が,高3の検定教科書よりも長い文を扱っているものもある。
- 語彙のレベルに関しては、AWLの語彙を最も豊富に扱っていたのは平均的には高3の 検定教科書であったが、DP EnglishやMYP Englishでは一部のテキストは20%近くの語 彙がAWLで占められているものもあった。

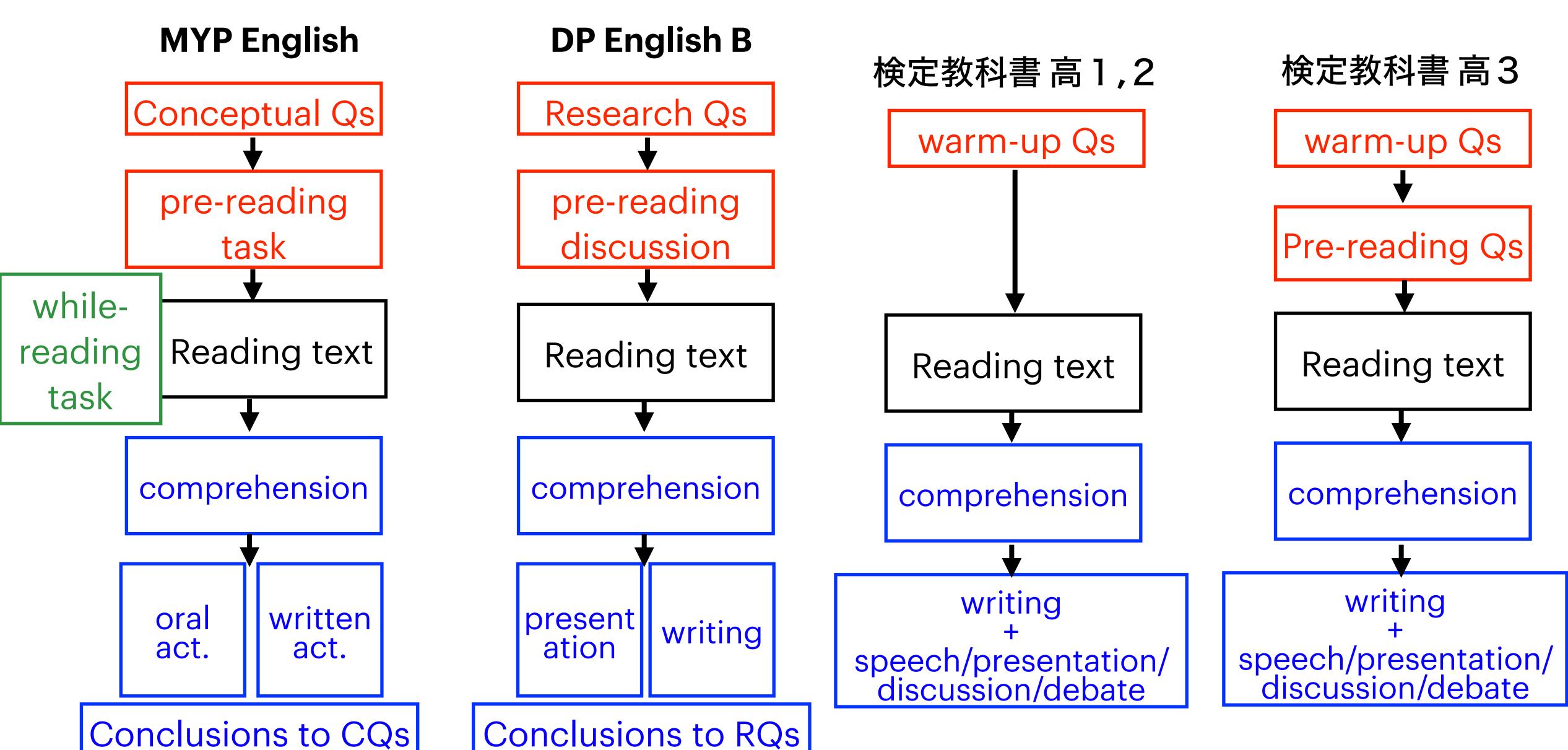
まとめ (2)

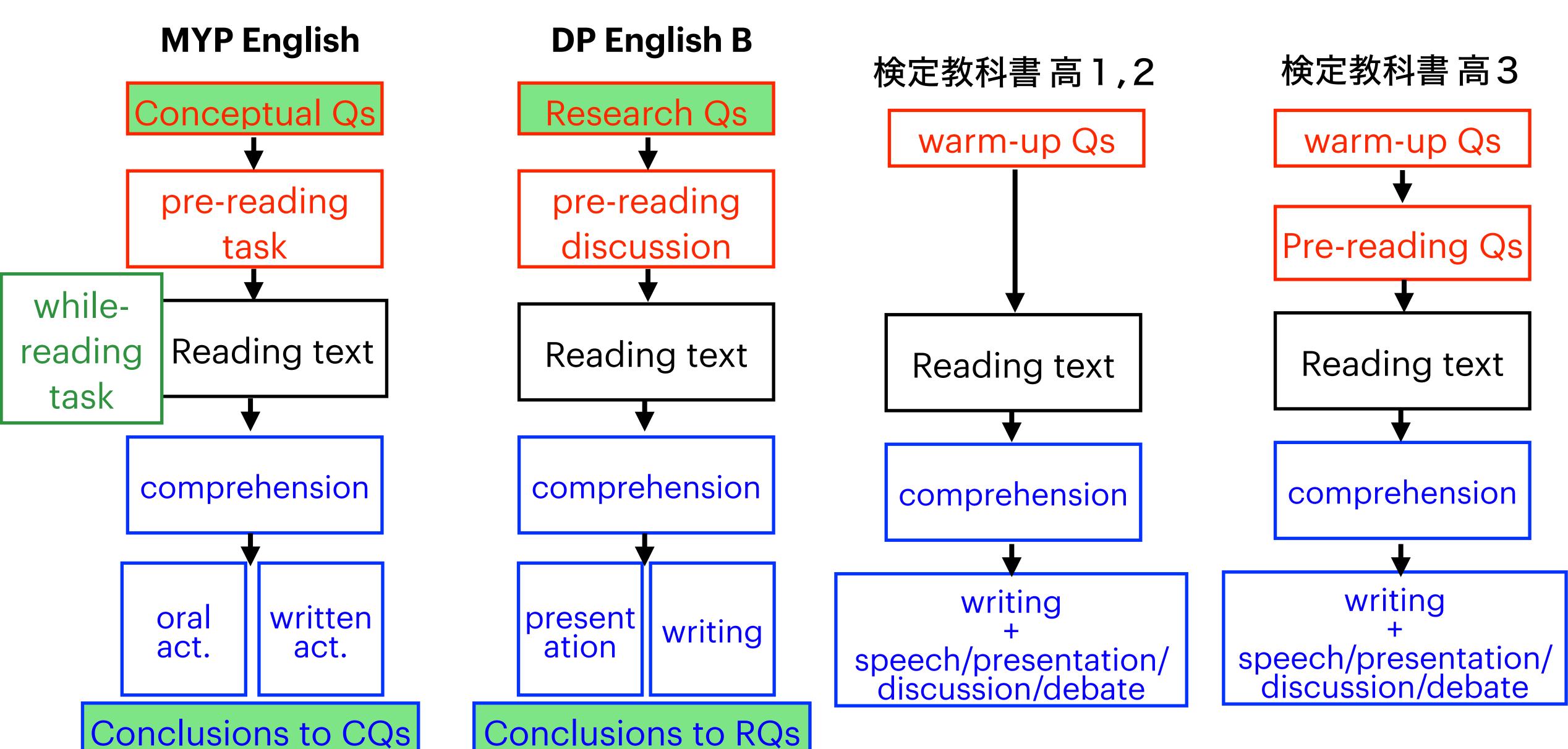
- 1テキストあたりのCEFRに基づいた語彙の分布の平均値,IBの教科書と検定教科書と もに学年が上がると,より難易度の高い語彙の割合が増えていた。off-listの語彙の割 合がIBの教科書では学年が上がるにつれて増えている一方で,日本の検定教科書はofflistの語彙はほぼ同じ割合に抑えられている。
- 可読性(リーダビリティ)については平均すると,高3の検定教科書が1番難しく,続いてDP English B> MYP English Phase 4という順番であった。しかし,IBの教科書は全般的に大学卒業レベルのものから,4th gradeレベルのものまで幅広いテキストを扱っている一方で,日本の検定教科書は,どれも可読性はある程度教科書単位でコントロールされていた。

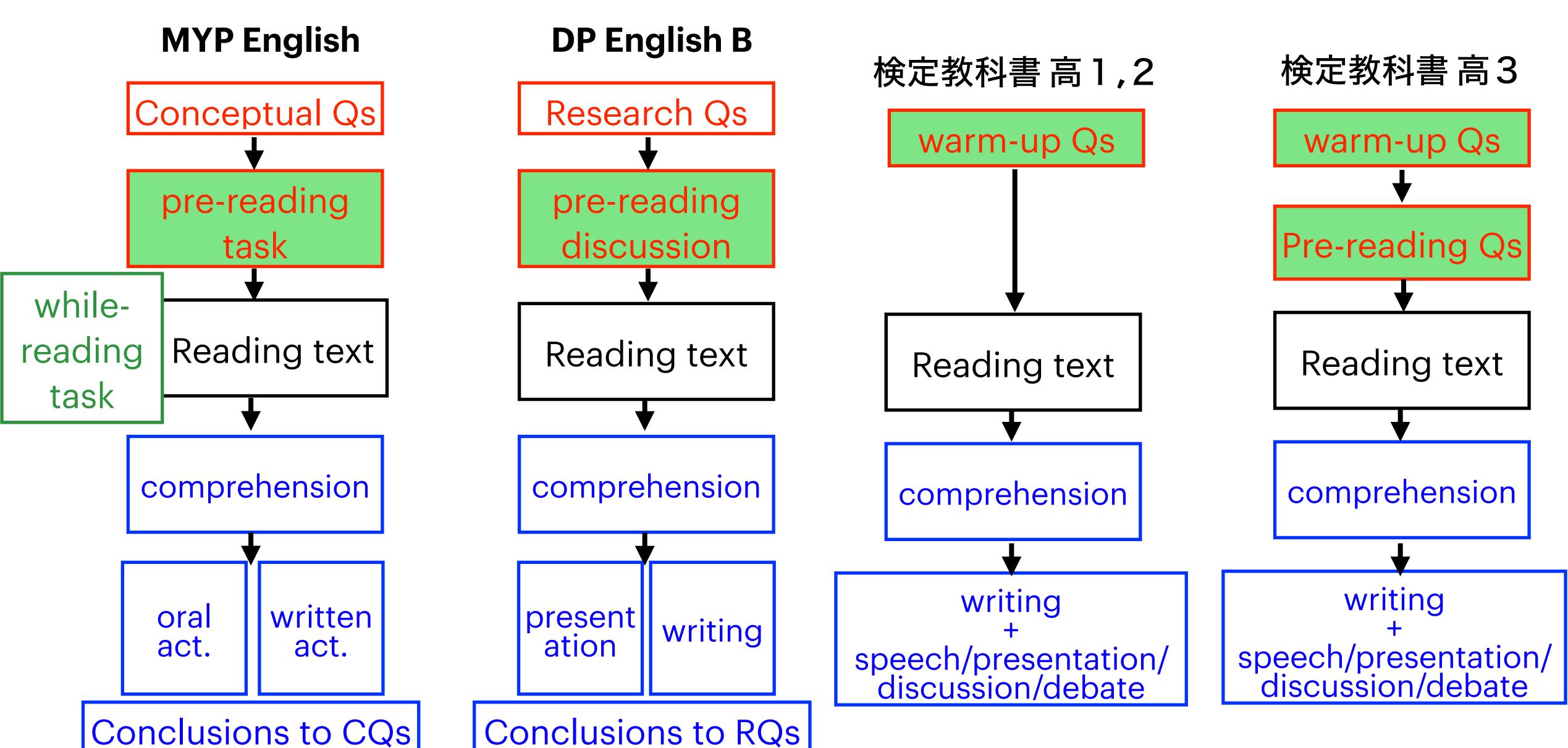
(2) リーディングテキストの関連タスクの分析

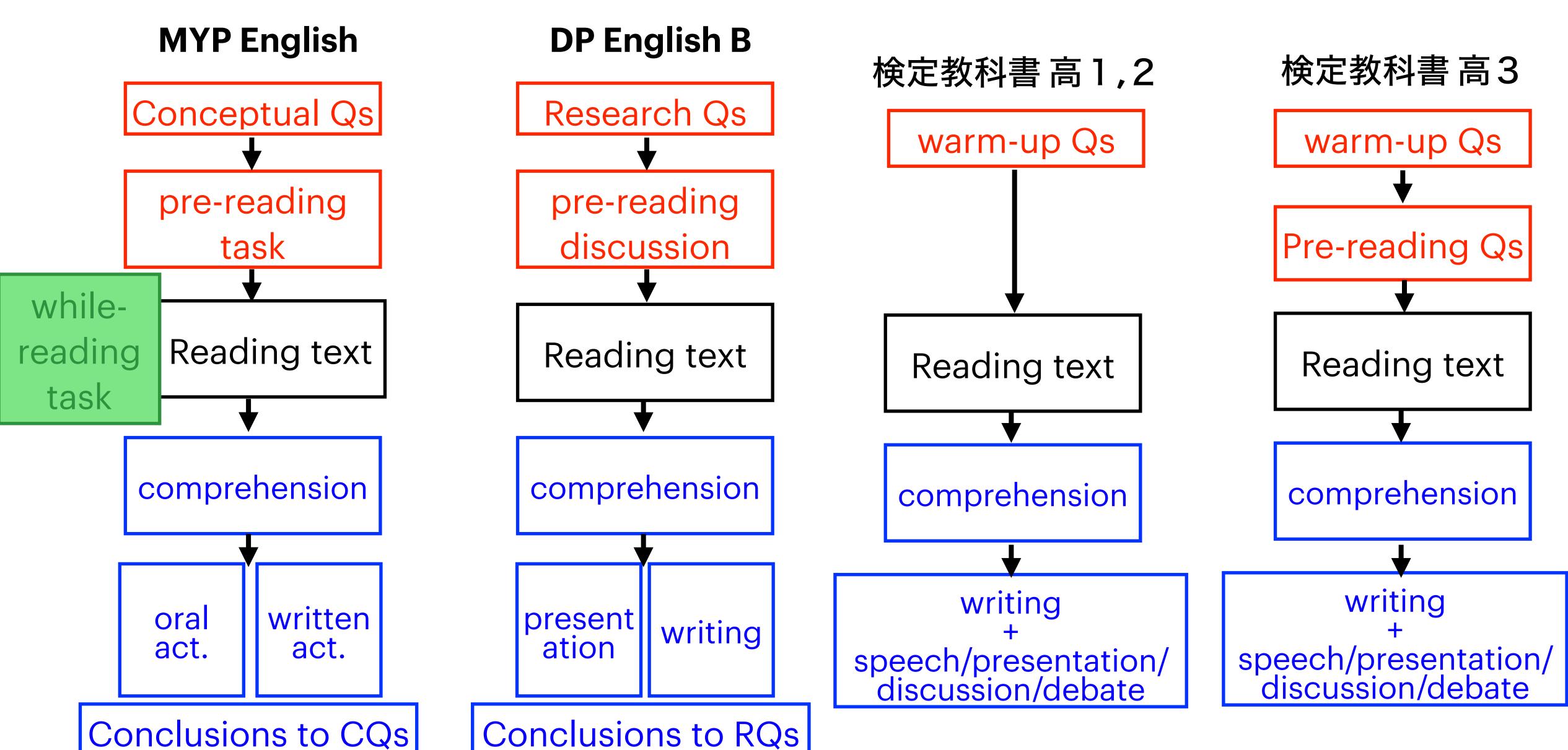
	# of texts examined	# of tasks Examined	# of PR tasks	# of WR tasks	# of AR tasks
MYP English Phase 3	25	108	18	14	76
MYP English Phase 4	28	116	17	9	90
DP English B	57	185	59	0	126
検定教科書高1	12	116	10	0	106
検定教科書高2	12	118	10	0	108
検定教科書高3	16	109	32	0	77

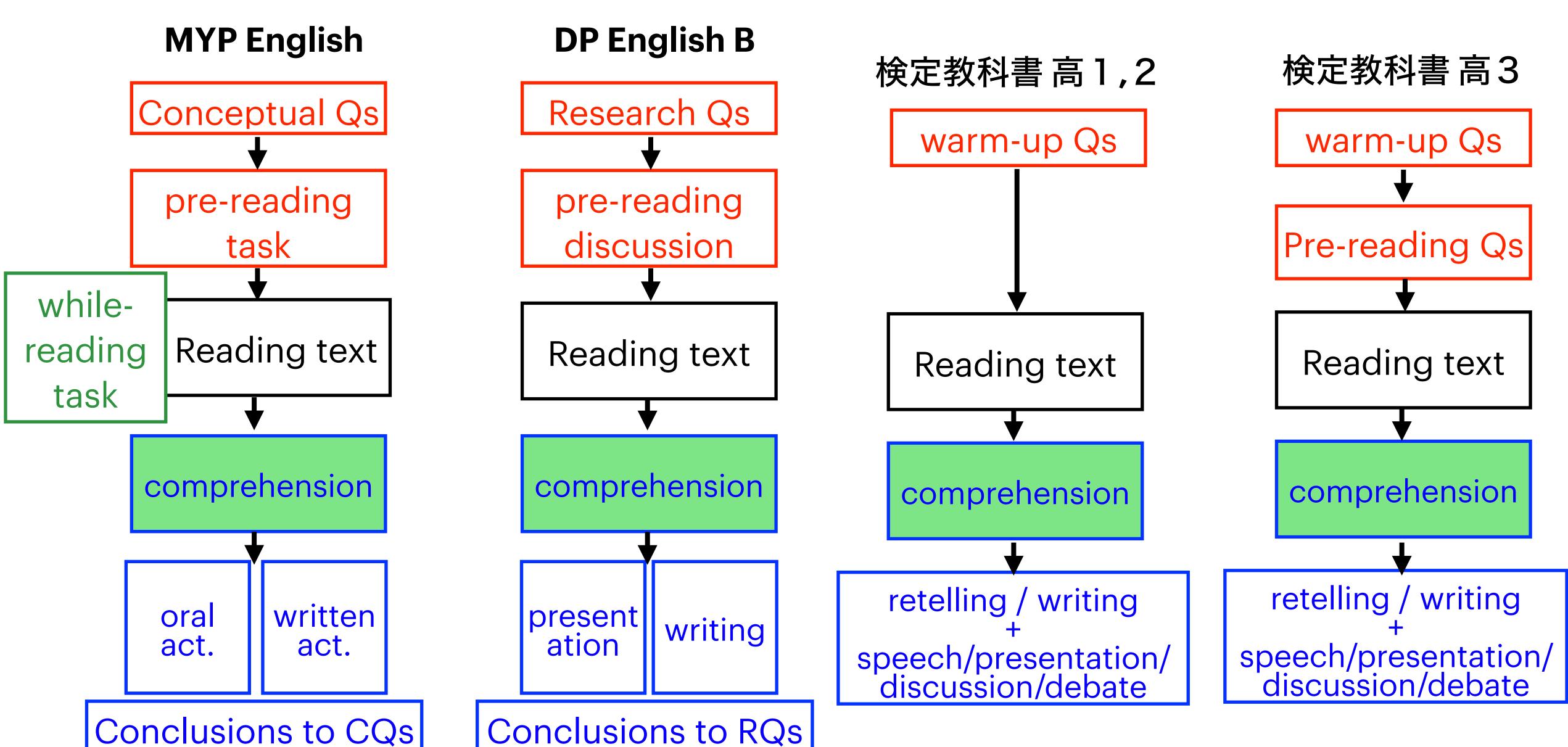
	# of texts examined	# of tasks Examined	# of PR tasks	# of WR tasks	# of AR tasks
MYP English Phase 3	25	108	16.7%	13.0%	70.4%
MYP English Phase 4	28	116	14.7%	7.8%	77.6%
DP English B	57	185	31.9%	0.0%	68.1%
検定教科書高1	12	116	8.6%	0.0%	91.4%
検定教科書高2	12	118	8.5%	0.0%	91.5%
検定教科書高3	16	109	29.4%	0.0%	70.6%

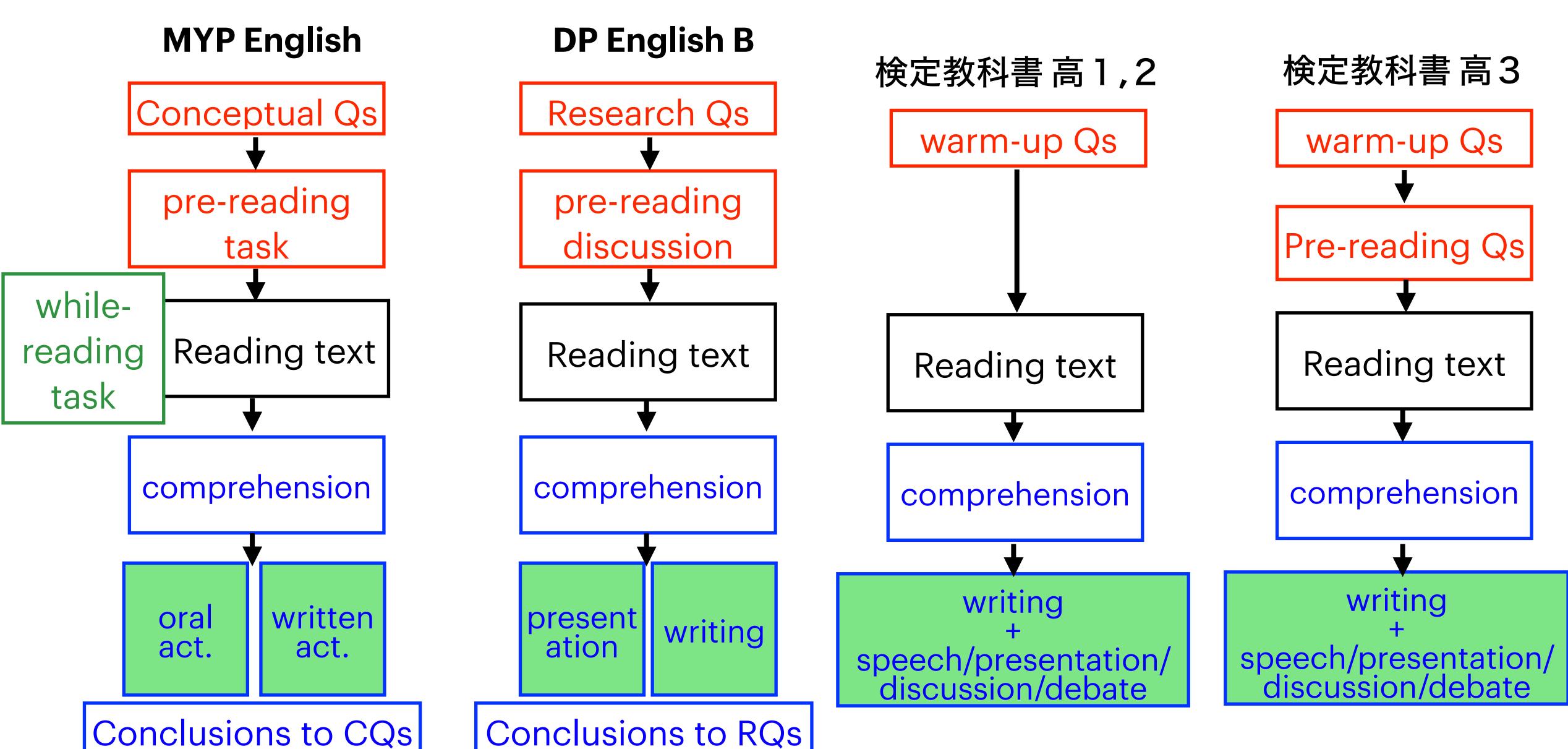












リーディングテキスト関連タスクの分析

改訂版ブルームノタキソノミーについて

分類	説明
Remember	事実、用語、基本概念、および回答を思 い出すことによって、以前学習した資料 の記憶を提示する
Understand	整理、比較、翻訳、解説、説明の提供、主要アイデアの記述により、事実やアイデアの理解を実証する。
Apply	獲得した知識、事実、技術、ルールを異なる方法で適用することによって、新しい状況への問題を解決する。
Analize	動機や原因を特定して、情報を調べて部品に分解する。 推論を行い、一般化をサポートする証拠を見つける。
Evaluate	情報の基準、アイデアの妥当性、または一連の基準に基づいて仕事の質を判断 し、意見を提示し、守る。
Create	新しいパターンで要素を結合するか、代替ソリューションを提案することによって、情報を異なる方法でまとめる。

リーディングテキストの関連タスクの分析

改訂版ブルームノタキソノミーに基づいた分析

	# of tasks Examined	Remember	Understand	Apply	Analize	Evaluate	Create
MYP English Phase 3	108	21.8%	26.5%	13.9%	11.2%	11.9%	14.6%
MYP English Phase 4	116	22.1%	25.8%	14.7%	11.4%	10.4%	15.7%
DP English B	178	21.3%	20%	13.3%	16%	17.3%	12%
検定教科書高1	116	44.8%	35.7%	2.6%	6.5%	3.9%	6.5%
検定教科書高2	118	42.7%	30.6%	3.6%	12.1%	5.6%	5.2%
検定教科書高3	109	38.4%	33.5%	8.4%	8.9%	9.4%	1.5%

まとめ (3)

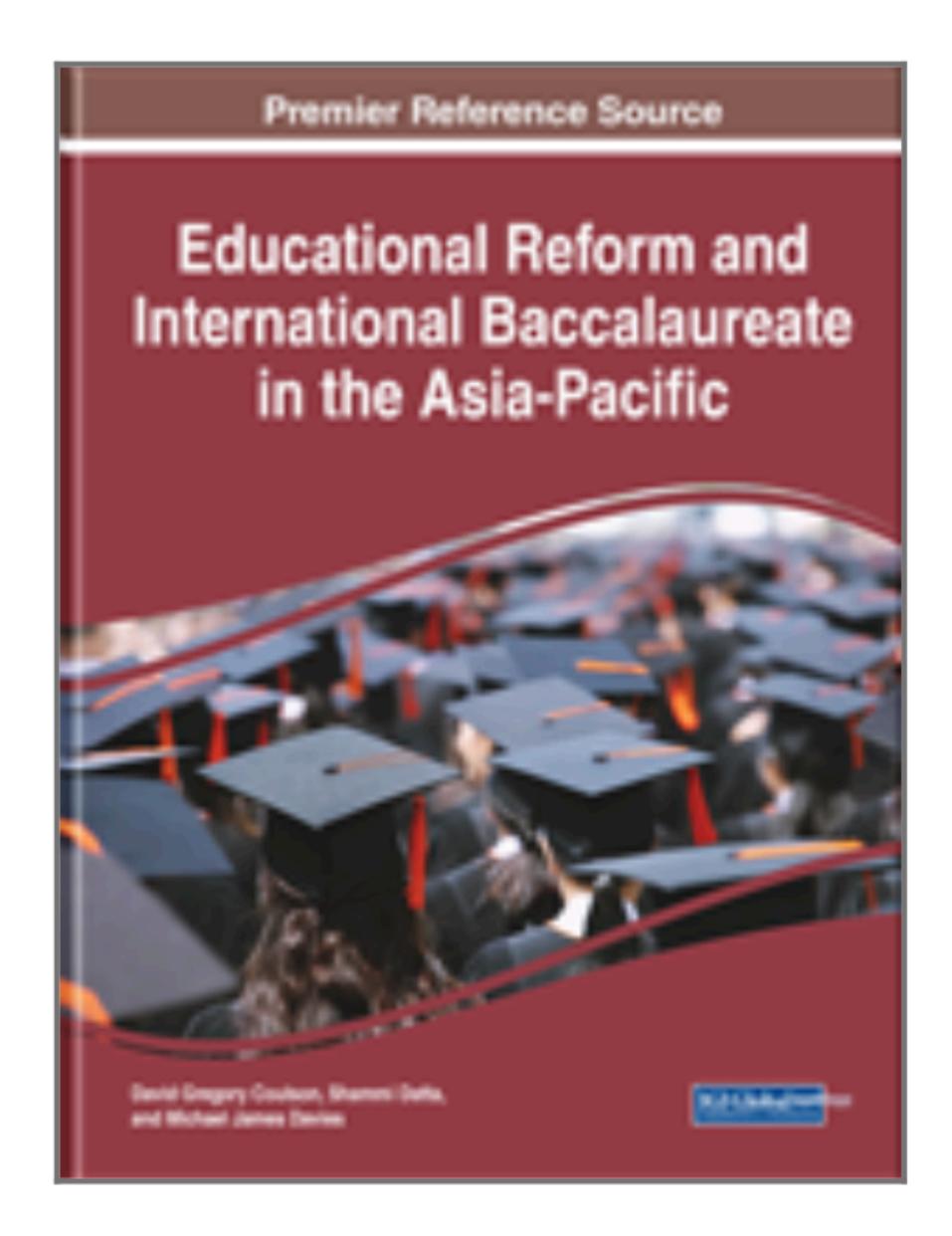
- IBの教科書はともに、Unitの前に「探究するための問い」を提示し、学習の終わりに「その問いに関する振り返り」が盛り込まれている。
- 検定教科書はpre-reading taskはwarm-up Qsで質問が載せてあるだけであったが, IB の教科書はpre-reading taskとその後のリーディングテキストへの関連度が高い。DP English Bにおいては, Discussionがメインであったが, 特にMYP Englishのテキストは, 読解テキストの内容の一部をハイライトし, 事前に考えさせるなど, 様々なバリエーションで展開されていた。
- while-reading taskがあるのもMYP Englishのみであった。こちらも内容をまとめるだけでなく,自分は読解テキストの主張に対して,どの程度賛成できるかといった読者自身の評価を求めるものもあった。

まとめ (4)

- Post-reading taskでは, どの教科書も内容理解の設問が用意されていたが, IBの教科書にしか見られないものや検定教科書にしかみられないものも存在した。
- アウトプット活動は,検定教科書では,retellingがメインであったが,IBの教科書では多種多様なアウトプット活動がコンテクストを設定して展開されていた。
- タスクや設問の内容を「改訂版ブルームノタキソノミー」に基づき分析すると,検定 教科書においては5割~6割がRememberingとUnderstandingの「低次の思考」を求 める設問であったが,IBの教科書では同様の設問は4割~5割以下になっており,より 「高次の思考」を問う設問やタスクが満遍なく設定されていた。

教育的示唆

- 日本の検定教科書は読解テキストとしては, 語彙レベルのコントロールや, 可読性が丁寧にコントロールされており, 学習者の負荷を減らす工夫がされている。一方で, IBの教科書は, 大まかな教科書単位での語彙のコントロールは見られたもののauthenticな教材が多いためか, off-listの語彙が多い点や可読性がテキストによって大幅に違っていた。IBのテキストを利用する際はそれらに留意する必要がある。
- 日本の検定教科書においては,次期改定においてpre-reading taskとアウトプット活動としてのpost-reading taskの充実が求められる。pre-reading taskにおいては,読解テキストへの背景知識を活性化するとともに,読む目的や意義を学習者に意識させるような工夫が必要である。また,post-reading taskにおいても,ただ発表する,書くのではなく,聞き手や読み手を意識した場面設定や言語style/formatの設定が必要であり,そのためのscaffolding等,段階的な指導を盛り込むことも大切である。



Educational Reform and International Baccalaureate in the Asia-Pacific